

# 論文・レポートの書き方

上智大学外国語学部ロシア語学科  
A1355001 上野俊彦

## 1. テーマの選定

「書きたいテーマではなく、書けるテーマを選ぶ。」

自分自身で任意のテーマを選んでレポート・論文などを書く場合、テーマは、もちろん任意のテーマ、つまり書きたいテーマを選んでよいが、一定の分量のレポート・論文を定められた期限までに書かなければならないので、実際にはどんなテーマでもよいわけではなく、その期限内で書き終えることのできるテーマを選ばなければならない。いくら興味深く、面白そうなテーマでも、書き上げられなければ元も子もない。

書けるかどうかは、レポート・論文を書くための材料、つまり選んだテーマについての本（先行研究）や資料がある程度、入手できるかどうかで見極めることができる。10 本程度の先行研究と、アクセスできる資料などが数点あれば、卒論・ゼミ論としてある程度のことが書ける。選んだテーマに関係する本や資料があまり入手できない場合には、書きあげるのは困難である。その場合には、テーマを修正または変更しなければならない。

## 2. 書き方の手順

「テーマ→目次（構成）→文献・資料リストの作成→文献・資料を読む  
→中間報告・添削→完成」

書き方の手順は以下のとおり。

- ①テーマを決める。
- ②目次（構成）を決める。
- ③参考文献（先行研究）・資料リストを作成する。

作成したリストを指導教員に提出しチェックを受ける。

- ④参考文献を読む。
- ⑤レポート・論文を書き始める（もちろん、書きながら、文献も読む）。

この間に、テーマや目次（構成）の修正、変更をする場合もある。

## ⑥ 中間報告

実際に書いてみたレポート・論文の文章を e-mail でやりとりしたり、直接、面談したりしながら、添削や指導を受ける。

## ⑦ 仕上げ

## ⑧ 提出

# 3. 書き方のノウハウ

：考えるよりまず作業に取りかかる。とにかく書いてみる。：

### 3.1. まず書き出してみる

ハウ・トゥー的な意味での具体的な論文の書き方は、テーマにより千差万別なので、一般論的に指導・説明することは困難である。したがって、『論文の書き方』に類する本を 1 冊くらい読むことは参考にはなるかも知れないが、それを読めば書けるわけではない。むしろ、文章作法についての文献が参考になる<sup>1</sup>。

考えているだけでは前進しない。書き方の手順に従って実際の作業をしながら、あるいは実際に書いていくことで、新しいアイデアが浮かんでくる。まず、具体的な作業にとりかかり、書き出してみることが大切。結果はあとからついてくる。

### 3.2. 具体的作業手順

文献を読んでいるとき、重要と思われる箇所、論文・レポートで使えるような箇所があったら、すぐにその場で、マーカーで印をつけたり、付箋をつけたり、抜粋ノート（レジメ）またはカードを作成したりする。抜粋ノート（またはカード）は、日本語文献の場合は、そのまま抜粋せず、概要などをメモする程度でもよい。ただし、どの本（論文）の何ページかを必ずメモしておく。

抜粋ノートのページ数がある程度たまれば、論文が書ける。

すべて読み終わってから書き始めるのではなく、ある程度読んだところで、

---

<sup>1</sup> 木下是雄『理科系の作文技術』中公新書、1981 年；本多勝一『日本語の作文技術』朝日文庫、1982 年、などがお勧め。

論文を書き始める。そして、書きながら、また読むようにすると、要領よく読めるし、速く作業が進む。

なお、文献の一部だけをコピーした場合には、タイトルがわからなくなるので、著者、文献名（雑誌論文の場合は論文名と雑誌名）、出版社（単行本の場合）、出版年（雑誌の場合は月日・巻号など）を必ずコピーの余白にメモしておく。

#### 4. レポート・論文の形式

：タイトル、氏名（学生番号）、ページ番号、注、参考文献をつける。：

このレジメは、以下に示す形式に基づいて作成されている。

##### 4.1. ページレイアウト

###### ①用紙サイズ

A4 縦置きとし印字は横書きが標準（このレジメと同様）

###### ②余白

上下左右とも 30 ミリが標準

###### ③字数

A4 では 1 ページあたり 40 字×30 行＝1200 字が標準

###### ④フォント

日本語用のフォントは、タイトル、章タイトル等は MS ゴシック、本文は MS 明朝。

英数字用のフォントは、Times New Roman など。

###### ⑤フォントサイズ

タイトルは 12 ポイント、またはそれ以上。本文は 10.5 ポイントが標準。  
注等は 9 ポイント。

###### ⑥ページ番号

ページの下部・中央に、1、2、と数字を入れるのが標準。

表紙にはページ番号は打たないのが一般的。

表紙の次からページ番号が入る。

ワープロソフトで、表紙にはページが打たれず、次ページから、ページ番号を入れるように設定できる。

## 4.2. 書式

### 4.2.1. 表紙

タイトル、学生番号、氏名を書く。

### 4.2.2. 本文

①標準的な章番号の付け方は以下のとおりだが（5 までとは限らない）、多様な形式がある。

#### 1. はじめに（序論、まえがき、問題の所在）

「はじめに」で、テーマを選んだ理由、選んだときの問題意識、あるいは問題提起、疑問点の提示がなされる。

また、長い論文などの場合には全体の構成が説明される。

#### 2. 章タイトル

##### （1）節タイトル

##### ①小見出し

.....

#### 5. おわりに（結論、あとがき、結び）

結論が書かれるが、本文中にすでに書かれていれば、なくてもよいし、感想めいたことを書いてもよい。

「はじめに」で問題提起あるいは疑問点の提示がなされた場合には、「おわりに」か、または本論で回答が提示されなければならない。

また、そのレポート・論文で書ききれなかったこと、今後の課題や展望を書いてもよい。

②このレジメは、論理学などで始まり、近年、他の学問分野でもしばしば用いられるようになった、以下のような章番号の付け方をしている。

## 1. はじめに（序論、まえがき、問題の所在）

## 2. 章タイトル

## 2.1. 節タイトル

## 2.1.1. 小見出し

.....

## 5. おわりに（結論、あとがき、結び）

## 4.2.3. 脚注

脚注（ページの下）<sup>2</sup>または文末脚注（レポート・論文の最後にまとめる）<sup>3</sup>とする<sup>4</sup>。

ワード<sup>5</sup>などには、途中で注を挿入した場合<sup>6</sup>、順繰りに番号<sup>7</sup>が自動的に訂正されていく<sup>8</sup>、自動脚注機能がある<sup>9</sup>。

このページに示す脚注<sup>10</sup>は、社会科学系論文の典型的な脚注形式である<sup>11</sup>。また、インターネットからの引用はアクセスした日付を入れる<sup>12</sup>。

## 4.2.4. 本文中のかっこ注

人文科学系論文（*Правда*, 1985/04/20: 2）では以前から（Ельцын, 1990: 11）、また社会科学系論文でも最近はこのように、本文の文章中にかっこ書きで注を入れて（ジョン・モリソン、1992: 46）、文末の参考文献表を参照させる形式が用いられている（Ельцын, 1990: 12）。このカッコの中は、著者名、文献出版（発行）年、参照ページの順となっている。同一著者が同一年に複数の著作を書いている場合には（Diamond, 1971①: 98）のように、

<sup>2</sup> *Правда*, 20 апреля 1985г., с. 2.

<sup>3</sup> Ельцын Б., *Исповедь на заданную тему*. М., «Новый стиль», 1990, с. 11（邦訳、ボリス・エリツィン、小笠原豊樹訳『告白』草思社、1990年、22頁）。

<sup>4</sup> ジョン・モリソン、秋野豊監訳、赤井照久訳『ボリス・エリツィン』ダイヤモンド社、1992年、46頁。

<sup>5</sup> Ельцын, указ., с. 12（前掲邦訳、23–24頁）。[「указ.» < «указанный» 「前掲」の意味]

<sup>6</sup> Там же, с. 13–15（同上、26–31頁）。[«Там же»は「同上」の意味]

<sup>7</sup> Diamond, Larry, Lintz, Juan, and Lipset, Seymour Martin (eds.), *Politics in Developing Countries: comparing experiences with democracy*. Lynne Rienner, 1988, p. 98. [“eds.”は「（複数人物の）編」の意味]

<sup>8</sup> Dahl, Robert, *Poliarchy: Participation and opposition*. Yale University Press, 1971, pp. 56–57.

<sup>9</sup> Ibid., p. 88. [“Ibid.”は「同上」の意味]

<sup>10</sup> Diamond et al (eds.), op. cit., pp. 98–99. [“et al.”は「ほか」の意味]

<sup>11</sup> *Собрание законодательства Российской Федерации*, No. 6, 5 февраля 2001г., Ст. 551.

<sup>12</sup> ロシア連邦大統領ホームページ (<http://president.kremlin.ru/news/14995> [2012/04/19])

区別できるように番号を入れる（Diamond, 1971②: 98-99）。

#### 4.2.5. 参考文献表

レポート・論文の最後につける。

邦文文献は著者の五十音順、欧文文献はアルファベット順とする。

以下は典型的な形式である。

なお、出版年が著者名の次にあるのは、4.2.4.の形式の注に対応させるためだが、それ以外の場合には、出版社名のあとに、出版年があるのが標準的である。

1. 上野俊彦、2001、『ポスト共産主義ロシアの政治－エリツィンからプーチンへ－』日本国際問題研究所。
2. 木村明生、2002、『ロシア同時代史：権力のドラマ－エリツィンからプーチンへ－』朝日新聞社。
3. 小森田秋夫編、2003、『現代ロシア法』東京大学出版会。
4. 下斗米伸夫、1997①、『ロシア現代政治』東京大学出版会。
5. 下斗米伸夫、1997②、『21世紀の世界政治 4／ロシア世界』筑摩書房。
6. Barany, Zoltan and Robert G. Moser (eds.). 2001. *Russian Politics: Challenges of Democratization*. Cambridge, New York, Oakleigh, Madrid, and Cape Town: Cambridge University Press.
7. Brown, Archie (ed.). 2001. *Contemporary Russian Politics: A Reader*. Oxford and New York: Oxford University Press.
8. Brown, Archie and Lilia Shevtsova (eds.). 2001. *Gorbachev, Yeltsin, and Putin: Political Readership in Russia's Transition*. Washington, D.C.: Carnegie Endowment for International Peace.
9. Lane, David and Cameron Ross. 1999. *The Transition from Communism to Capitalism: Ruling Elites from Gorbachev to Yeltsin*. Macmillan（溝端佐登史・酒井正三郎・藤原克美・林裕明・小西豊訳。2001.『ロシアのエリート』窓社）。
10. Беляева Людмила. 2001. *Социальная стратификация и средний класс в России*. Москва: «Akademia».
11. Гельман В., С. Рыженков, М. Бри (ред.). 2000. *Россия регионов*.

*Трансформация политических режимов.* Москва: Издательство «Весь Мир».

12. Гельман В., Г. Голосов., Е. Мелешкина (ред.). 2002. *Второй электоральный цикл в России (1999-2000гг.)*. Москва: Издательство «Весь Мир».

13. Голенкова З. Т. (ред.). 1999. *Социальное расслоение и социальная мобильность*. Москва: «Наука».

#### 4.2.6. 長さ・装丁

卒業論文は、ロシア語学科の場合、36,000～60,000 字、黒表紙左綴じ。詳細は、『履修要覧』および『学科便覧』を参照。なお、ネイティブチェック済みのロシア語の概要をつけることが求められている。

演習のレポート、いわゆるゼミ論は、演習（ロシア政治・外交）の場合、長さについての基準はない。e-mail の添付文書での提出が一般的なので、装丁についても基準はないが、ハードコピーを提出する場合は、ステープル止めでよい。

#### 5. 提出方法

卒業論文は、学科指定の方法により、学事センターに提出する。詳細は『履修要覧』を参照。提出の締切り日は 12 月 14 日である。

演習のレポート、いわゆるゼミ論は、演習（ロシア政治・外交）の場合、担当教員に直接に e-mail の添付文書で提出するか、またはハードコピーを提出する。提出の締切り日は 2 月 10 日とする。